

令和4年JGAP畜産認証取得経営体へのアンケート調査

目次

1 調査概要	1
2 令和4年JGAP畜産認証取得経営体へのアンケート調査結果	
(1)回答のあった経営体の概要	2
(2)取り組んだきっかけと効果	3
(3)取り組んだきっかけ(R元年～R4年調査)	4
(4)取り組んだ効果(R元年～R4年調査)	5
(5)GAP導入による変化(経営改善効果)(R元年～R4年調査) ..	6
・販売面の改善	
・生産量・品質面の改善	
・コスト面の改善	
・作業・生産管理の改善	
・従業員管理の改善	
(6)今後のGAPの取得方針、GAP認証の表示について	11
(7)生産者等の声	12

1 調査概要

① 調査内容

GAP認証を取得するきっかけや、取得した場合に具体的にどのような効果があったかについて実態把握を行った。

② 調査方法

調査対象：令和4年度にJGAP畜産認証を取得していた経営体
(205経営体)

調査時期：令和5年5月～6月

調査方法：農林水産省が(一財)日本GAP協会を通じて、googleフォームにより調査

回答数：39農場(56経営体)(回答率27%)

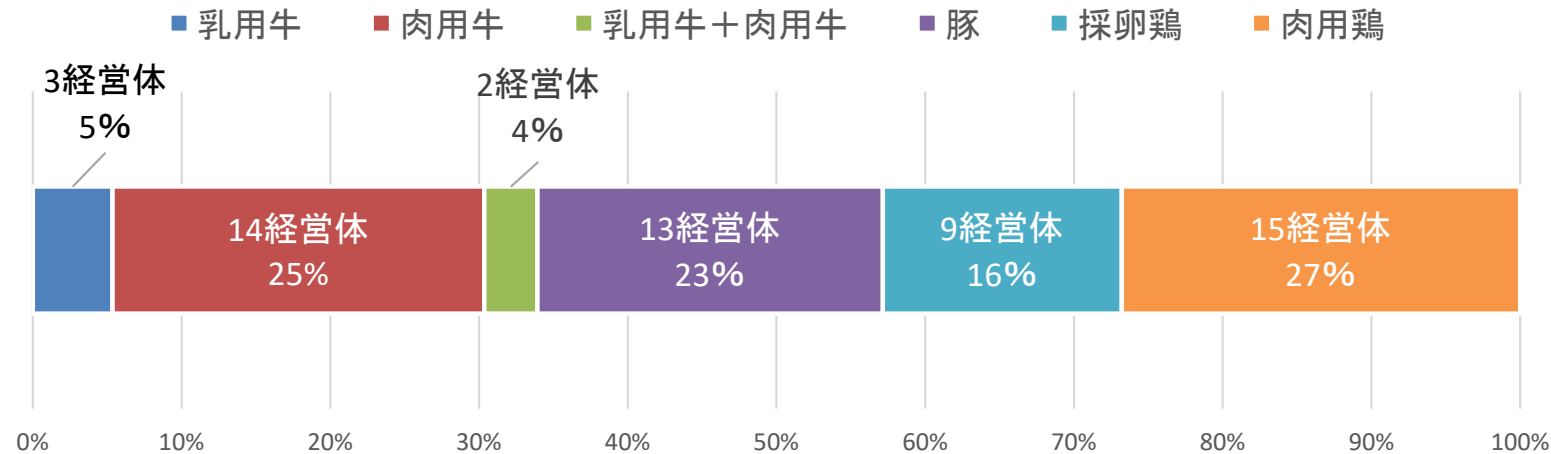
③ 調査項目

- ✓ GAPに取り組んだきっかけ(理由)とその効果
- ✓ GAP導入による変化(経営改善効果)
- ✓ 今後のGAP取組方針について(認証取得、認証表示) 等

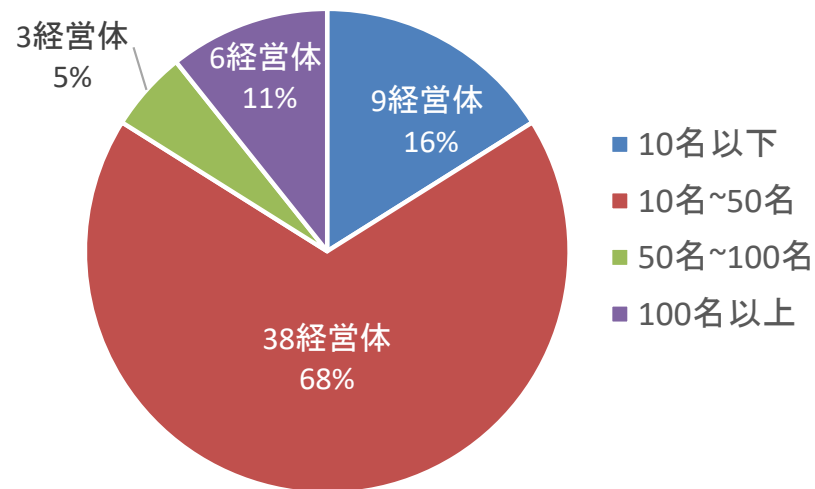
2 令和4年JGAP畜産認証取得経営体へのアンケート調査結果

(1) 回答のあった経営体の概要

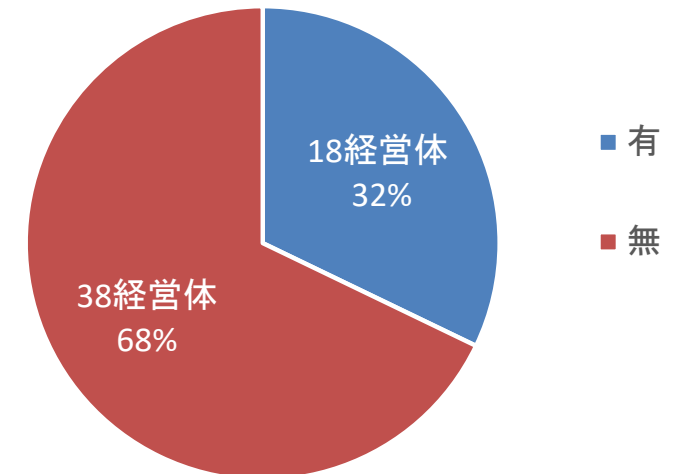
【回答のあった56経営体の飼養畜種の内訳】



【従業員数】



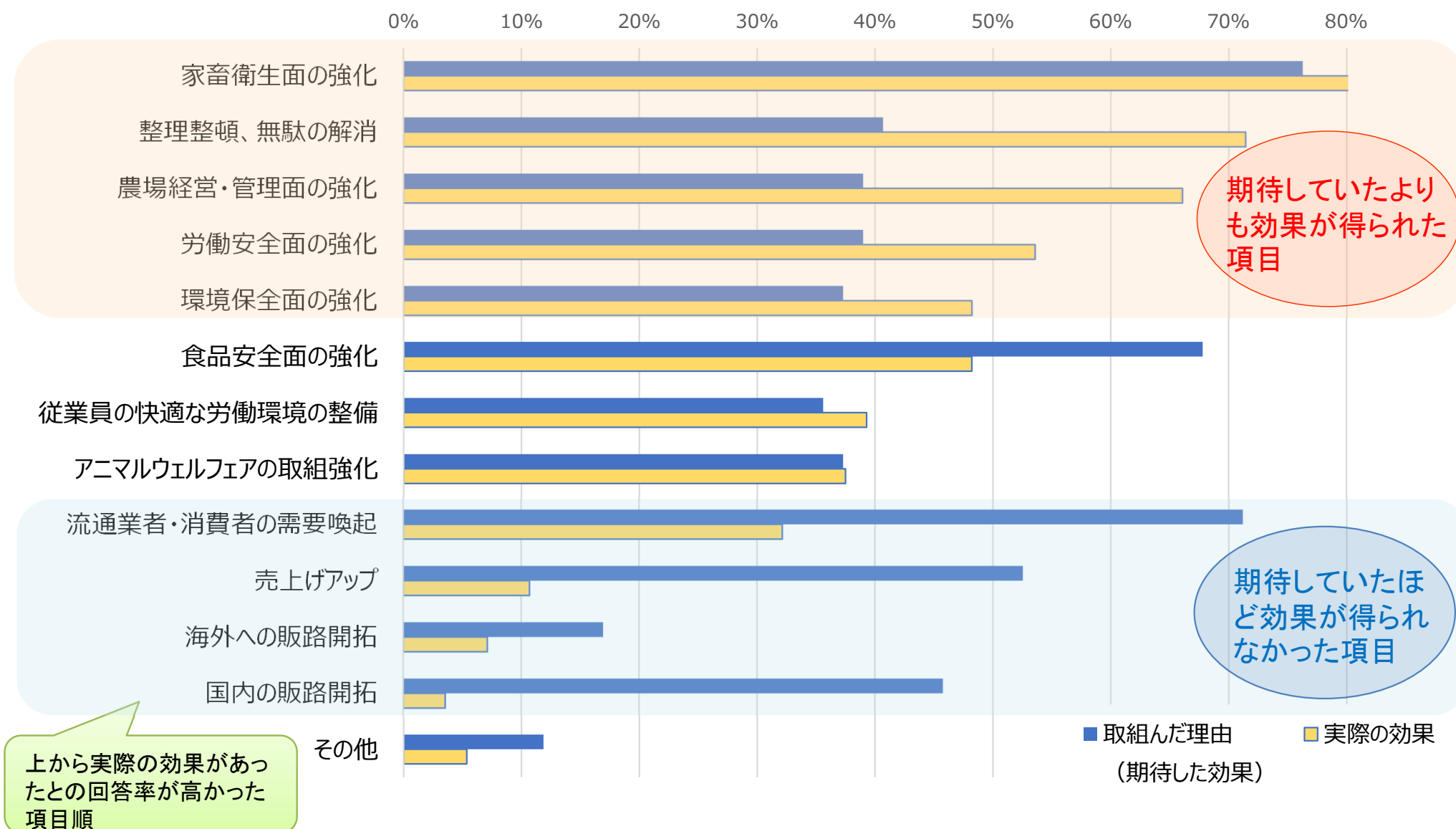
【外国人実習生】



回答があった56経営体のうち、従業員数は10名以上～50名未満が68%で最も多い。
また、GAP認証取得経営体のうち32%の農場で外国人実習生が従事している。

(2) 取り組んだきっかけと効果(複数回答可)

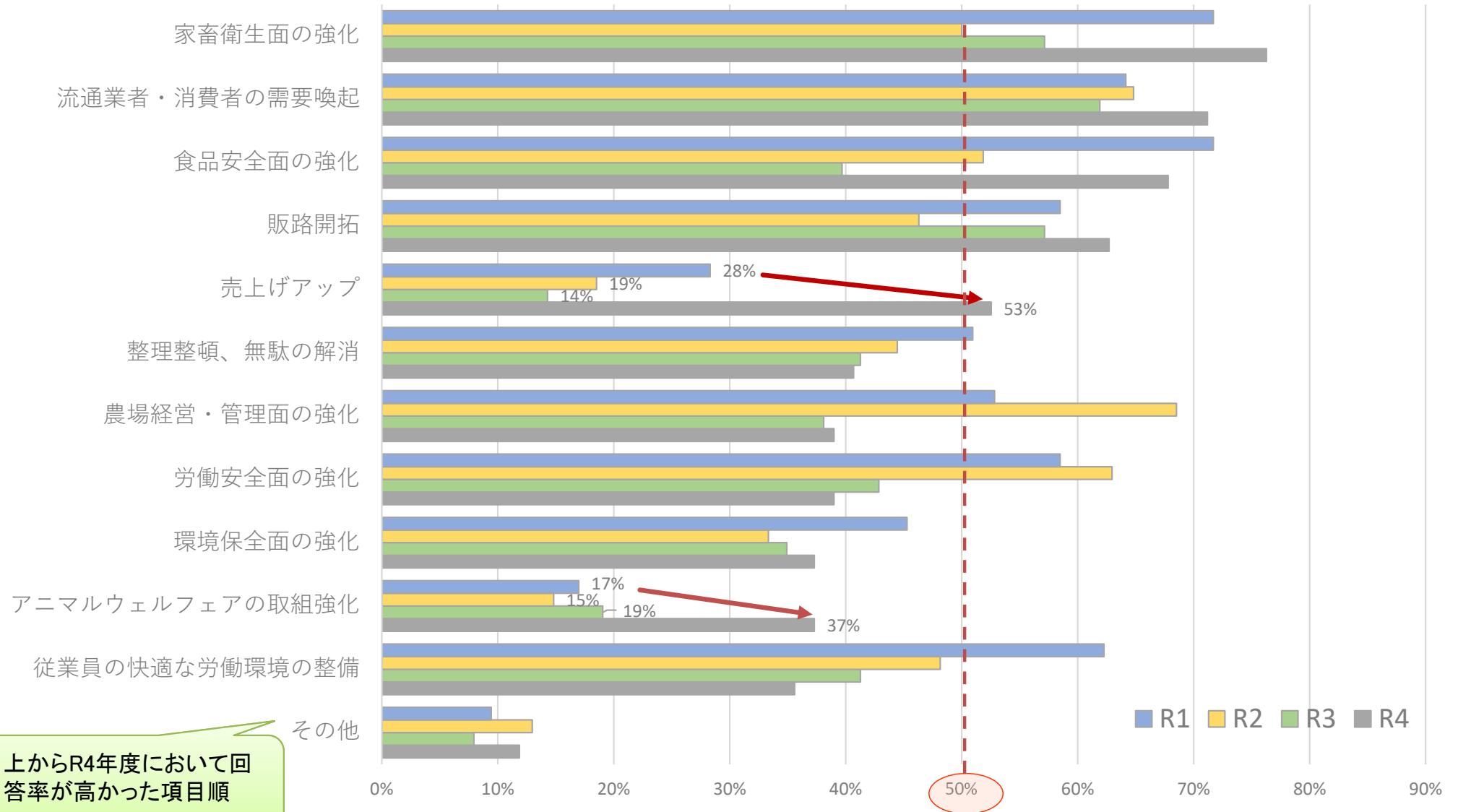
【令和4年調査】



主に農場管理の強化等に関する項目では、期待していた以上にGAPに取り組んだ効果があったと回答した割合は高い傾向があった一方で、消費者を含めた流通への活用に関する項目では、効果があったと回答した割合は低かった。

(3) 取り組んだきっかけ(期待した効果)(複数回答可)

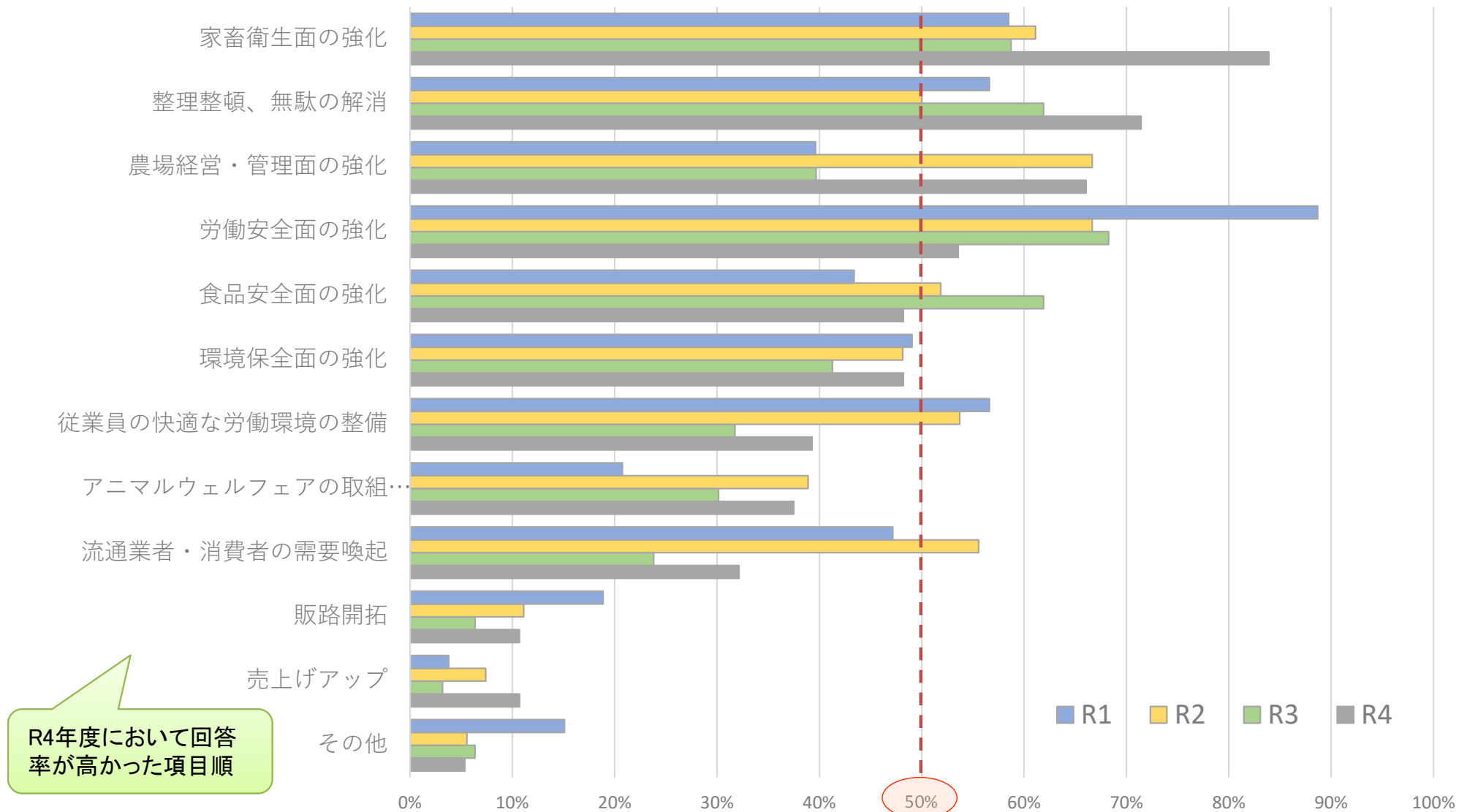
【R元年～R4年調査】



取り組んだのきっかけのうち「家畜衛生面を強化したい」、「流通業者・消費者の信頼を得て、求められたい」は4年間を通じて50%以上の回答率だった。「売上アップしたい」「アニマルウェルフェアの取組を強化したい」ではR元年からR4年を比較すると増加傾向にある。

(4) 取り組んだ効果(複数回答可)

【R元年～R4年調査】

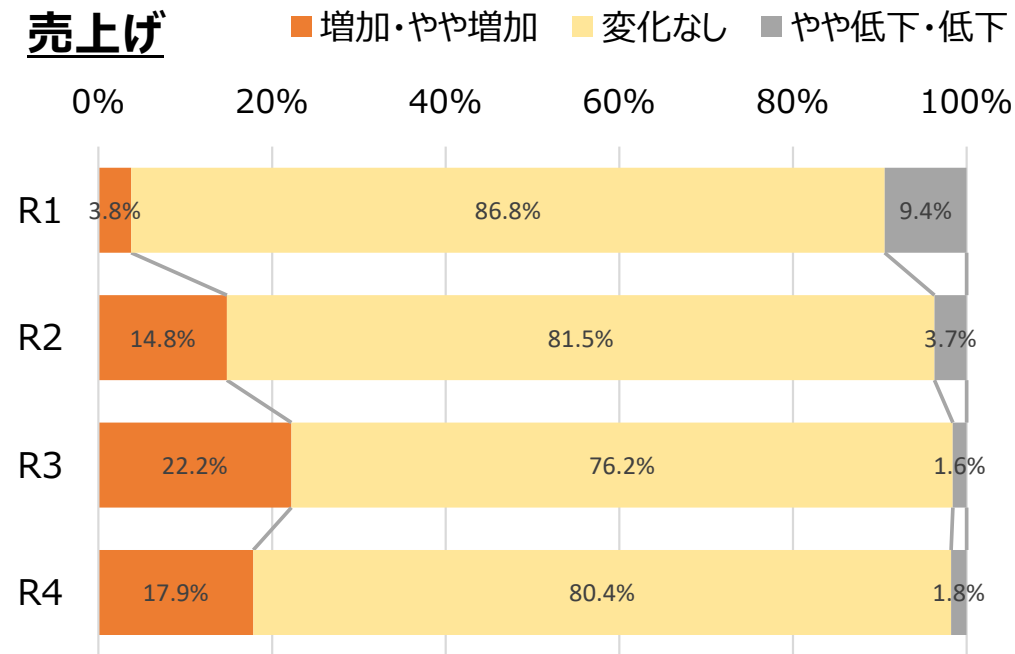


取り組んだ効果については「家畜衛生面を強化できた」、「整理整頓ができ、無駄がなくなった」で4年間を通じて回答率50%以上となり、R4年では最も高い回答率だった。一方、「国内外の販路拡大」「売上アップ」では回答率が低い傾向にある。

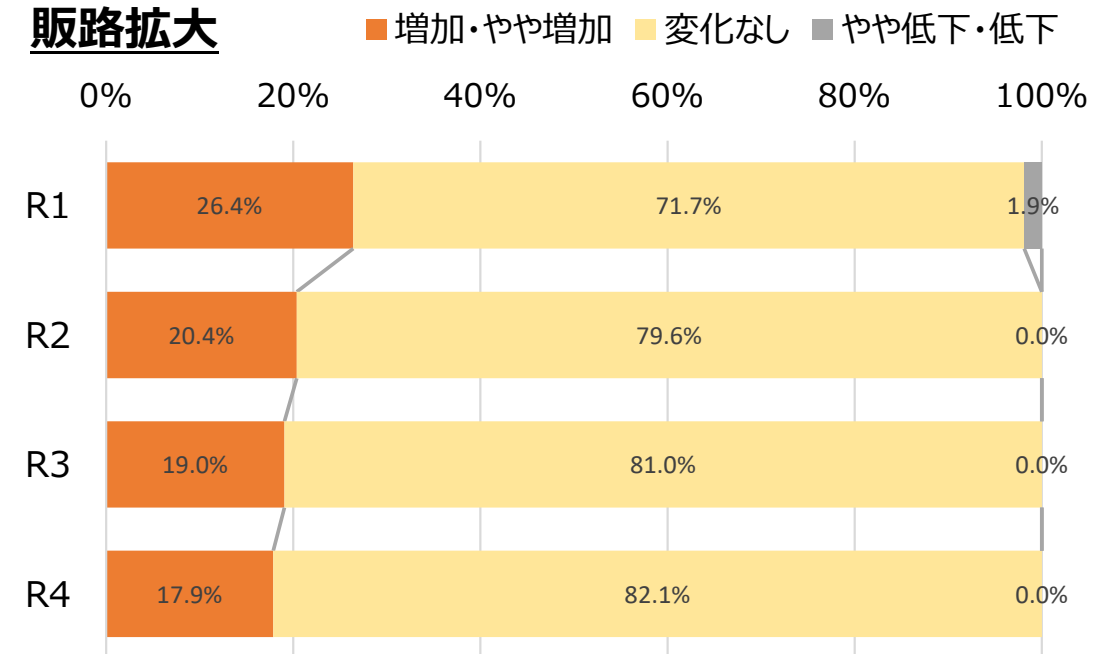
(5)GAP導入による変化(経営改善効果) 【R元年～R4年調査】

【販売面の改善】

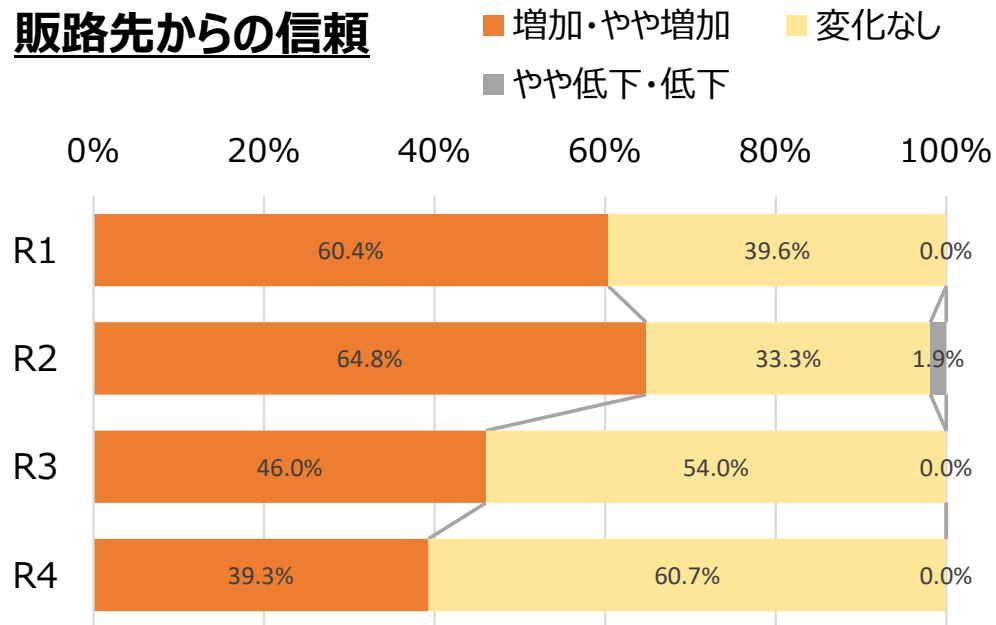
売上げ



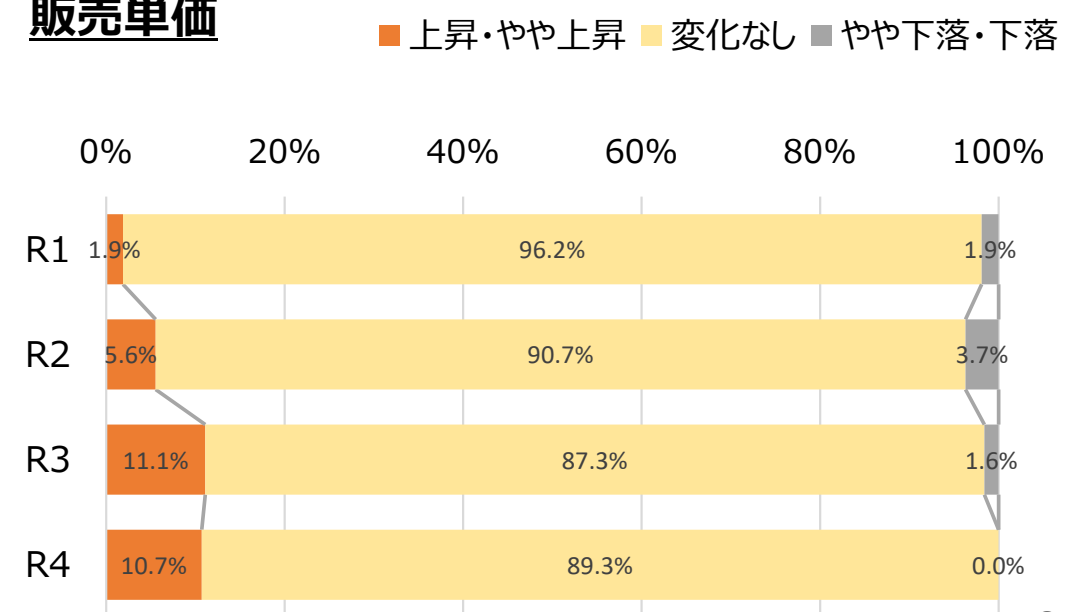
販路拡大



販路先からの信頼

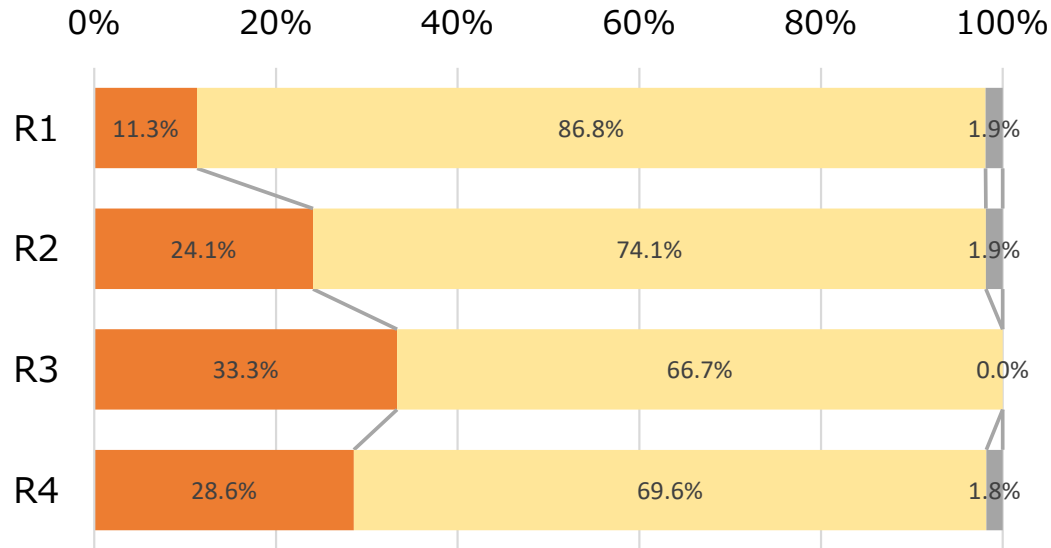


販売単価



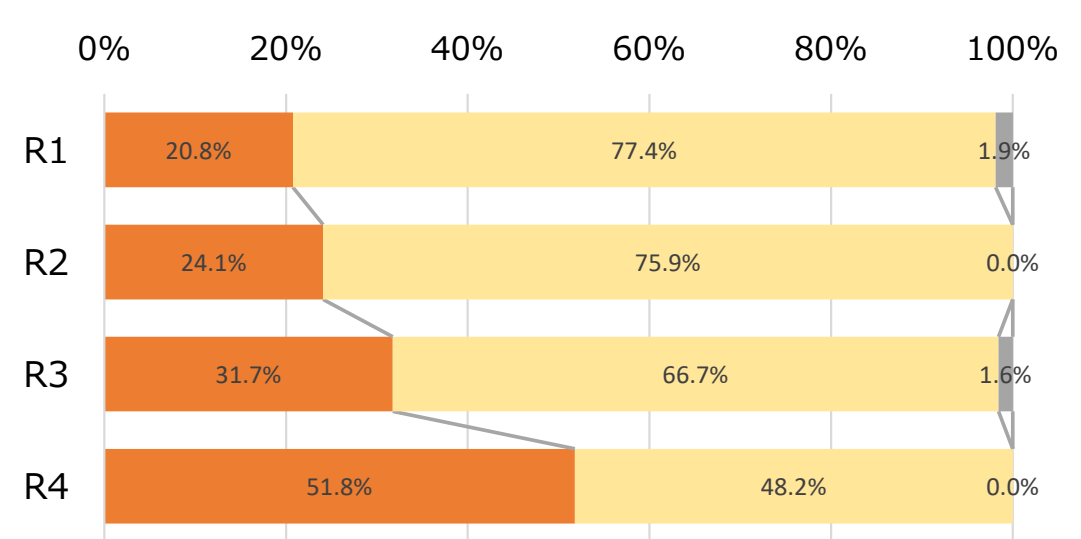
生産量

■ 増加・やや増加 ■ 変化なし ■ やや低下・低下



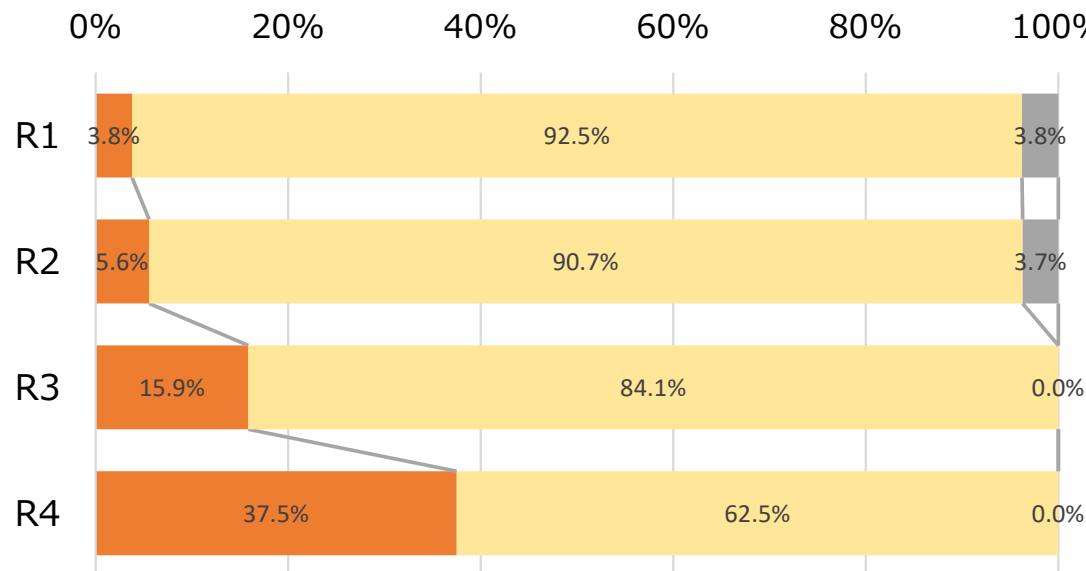
品質（等級、規格）

■ 向上・やや向上 ■ 変化なし ■ やや低下・低下



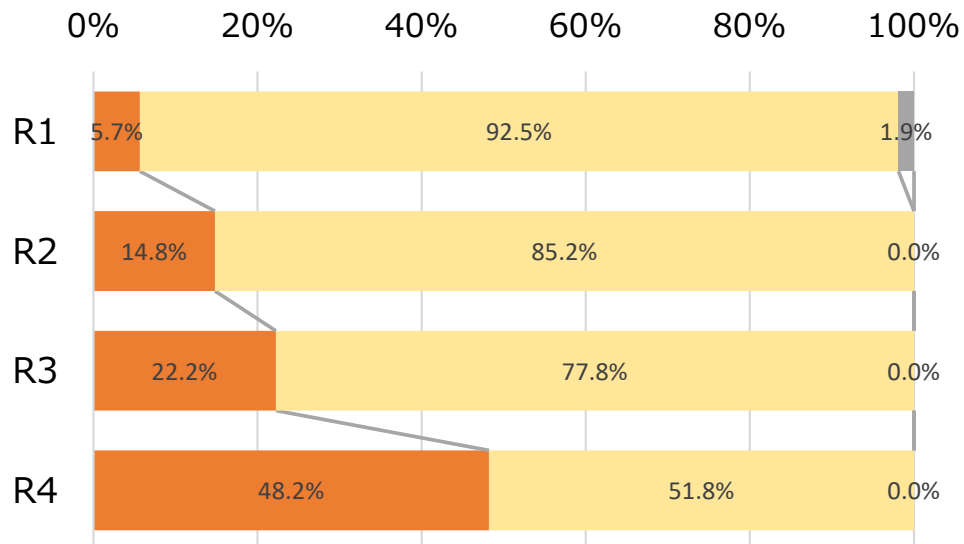
クレーム数

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加



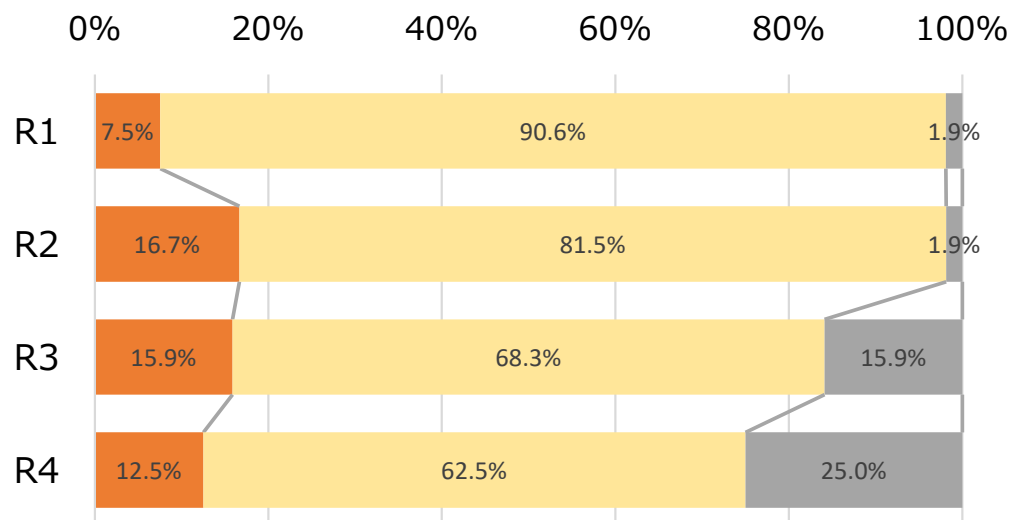
無駄な飼料量

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加



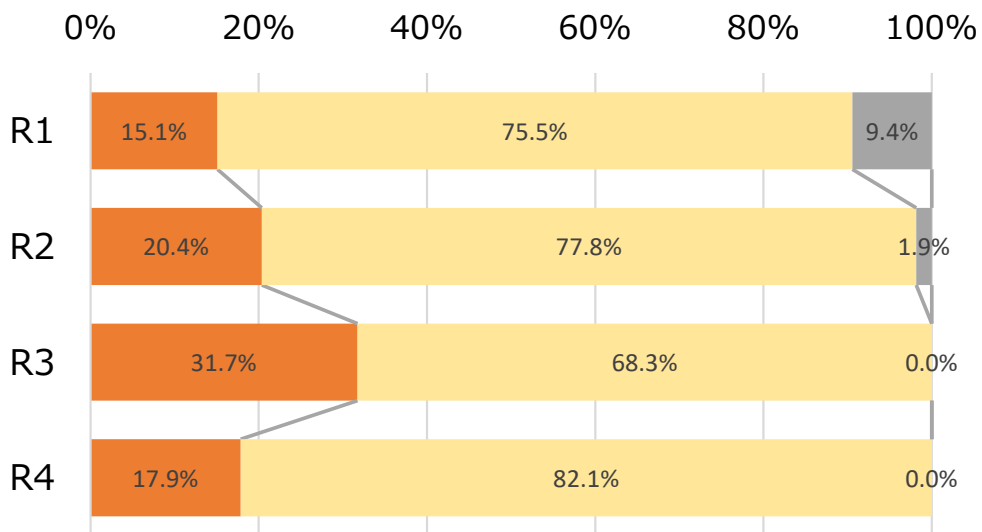
生産コスト

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加



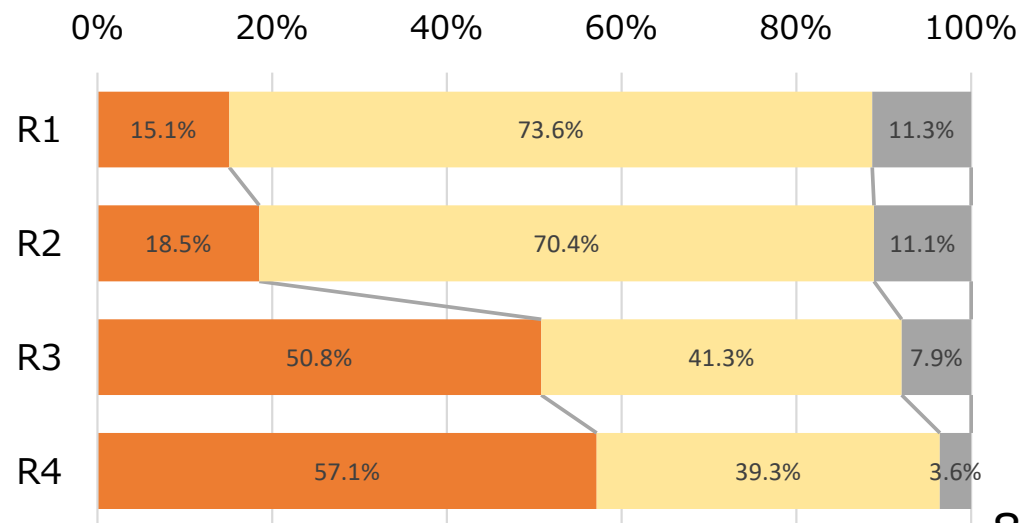
資材の欠品や在庫

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加



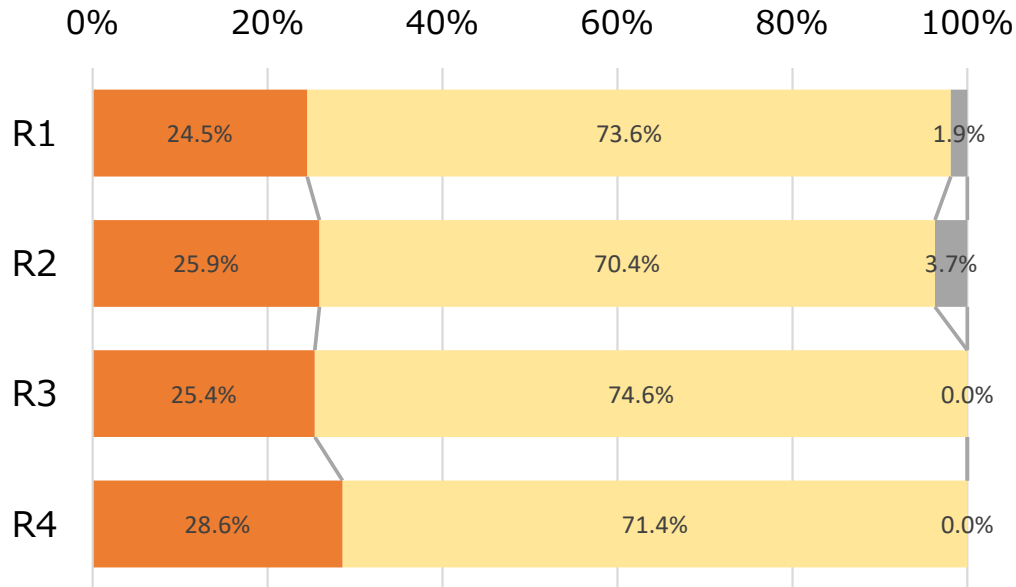
作業効率

■ 向上・やや向上 ■ 変化なし ■ 低下・やや低下



農作業事故件数

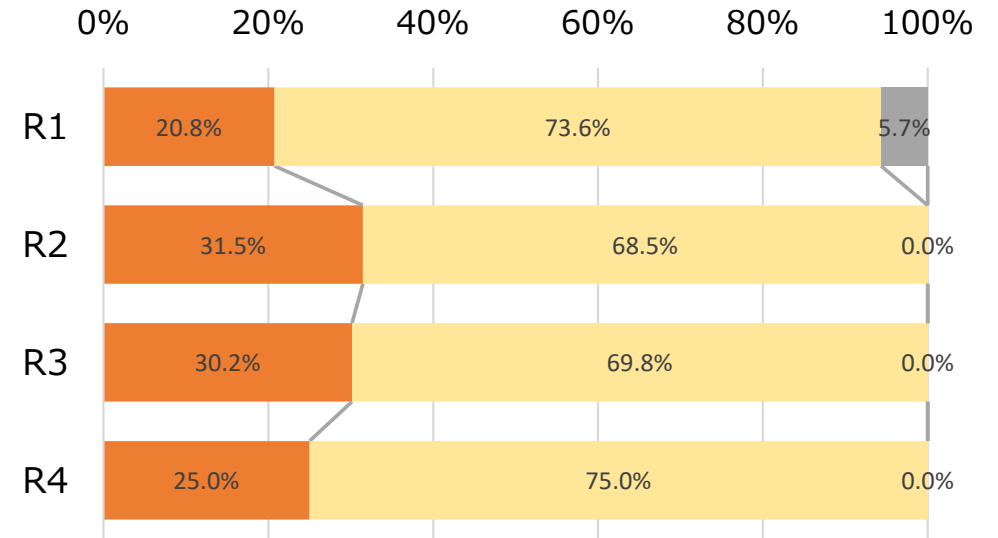
■ 減少・やや減少 ■ 変化なし
■ やや増加・増加



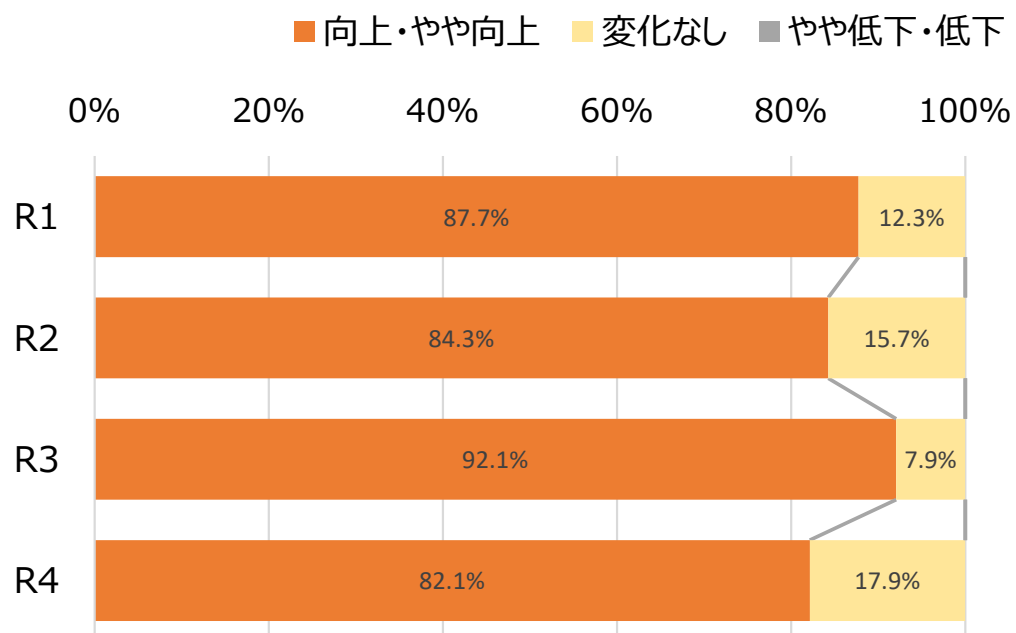
生産・販売計画の

立てやすさ

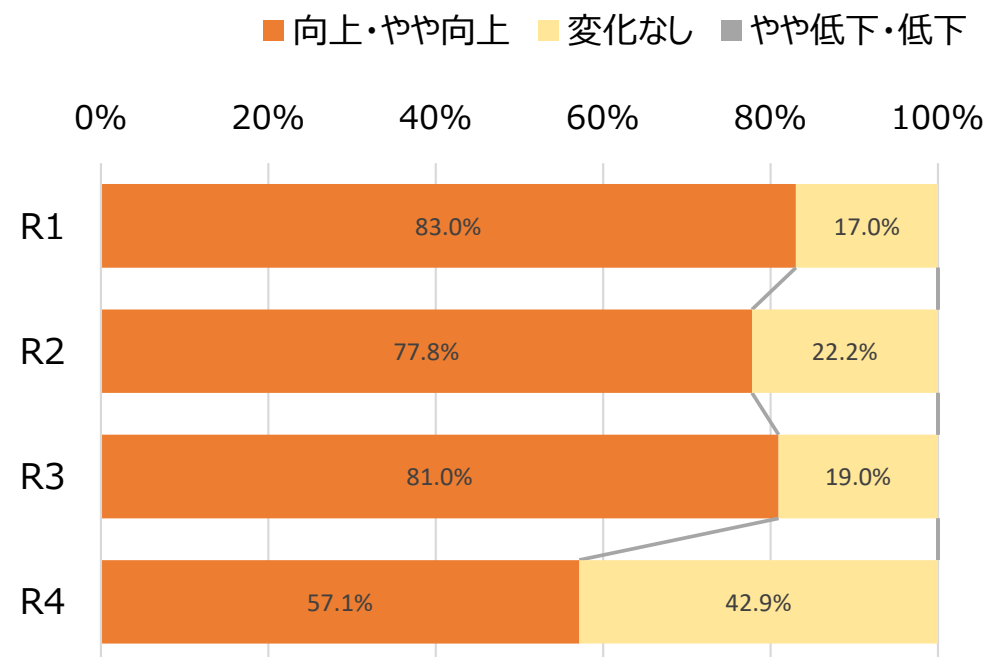
■ 立て易い ■ 変化 ■ やや立てづらい・
 ・やや立て易い なし 立てづらい



従業員の責任感及び自主性

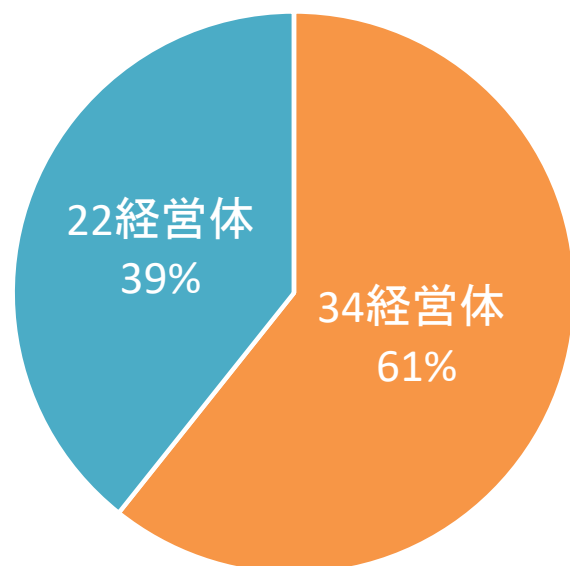


従業員の意思疎通



(6) 今後のGAPの取得方針、GAP認証の表示について

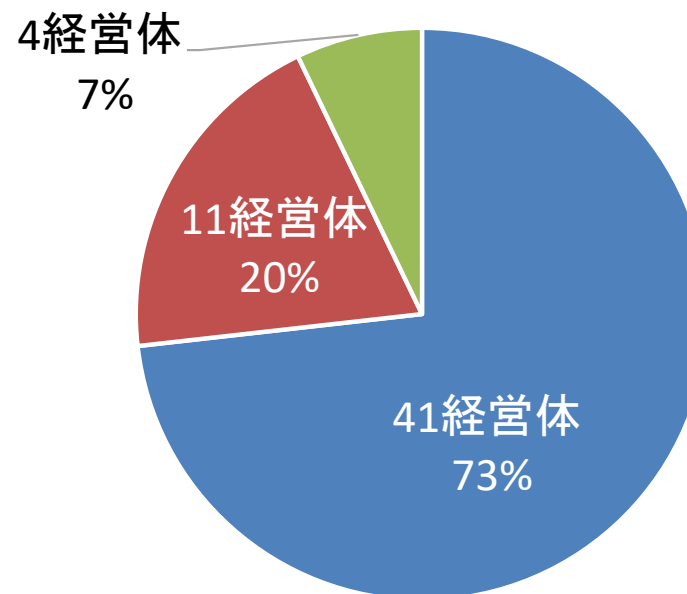
【今後のGAPの取得方針】



※アンケートを回収した全56経営体で「更新予定」と回答。「更新の予定なし」は回答なし。

- 個別認証による更新を予定
- 団体認証による更新を予定

【JGAP認証の表示(JGAPロゴマークの使用)】



- 使用している
- 使用していないが、今後使用したい
- 使用していない。今後も使用予定はない

今後のGAPの取得については更新予定のない経営体はなく、JGAP認証の表示は全体の7割を超える一方で、その認知度向上や使用方法に関して改善を求める声があった。

(7)生産者等の声

地域との交流が増えた。

もっと簡単にロゴマークを使用したい。

対外的な信頼が向上した。

作業の増加があるのが現実。緊急に退職者が出たため対応が遅れたことで、働き方改革が遅れている。

事務所を管理運営していく上で必要は法令や基準など、様々な知識向上につながった。

県と連携して地域の生産者や高校への啓蒙活動を進められた。

所得、維持で審査による手間や手数料が増えただけだった。

SDGsやJGAPに関する学びを強化できた。

GAP取組による効果はなかった

GAP認証取得の取組みを通じて地域との交流が増加したり、対外的な信頼が向上したなどの成果がでてきているが、作業が増加するなどの事例も見受けられた。